

町農家があおもり旨い米グランプリを受賞

2022年産「あおもりの旨い米グランプリ」個人の部「まっしぐら」で、グランプリに輝いた町農家の須藤聖司さんが12月27日（火）、役場を訪れて相川町長に受賞の報告を行いました。

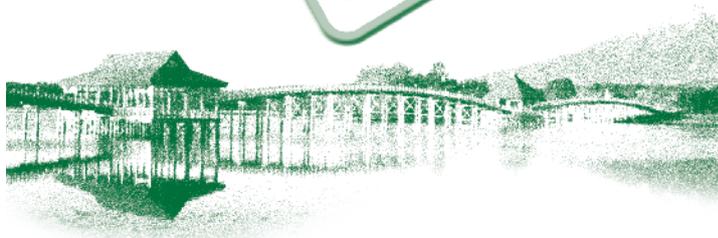
須藤さんは7年前に就農し、父の繁喜さんら家族で農家を営んでいます。繁喜さんが前年度に「つがるロマン」で準グランプリを獲得したことに刺激を受け、食味向上のために土壌管理や追肥管理などにこだわったそうです。

須藤さんが収穫した「まっしぐら」を試食した相川町長は「町のコメがグランプリを取ったことは町内の他の生産者の励みになる」と話していました。

須藤さんは「嬉しい反面プレッシャーも感じる。賞に恥じないコメ作りに励み、コメの消費拡大につなげたい」と意気込みを語りました。



△グランプリを獲得した須藤さんと「まっしぐら」を試食する相川町長



あなたの地区の楽しい催しや出来事などがありましたら、役場企画観光課まちづくり班（内線262）までお知らせください。

仙台駅で鶴田町の魅力を発信

役場企画観光課は1月21日・22日、宮城県仙台駅内の「駅たびコンシェルジュ仙台」で、鶴田町をPRするための観光物産フェアを行いました。

物産フェアには企画観光課のほかにも、町の農業後継者団体「みどりの会」が参加。町特産の冬ぶどうスチューベンやみどりの会が生産したりんご、道の駅つるたのスチューベン大福などの道の駅の商品を販売しました。2日間のフェアには多くの方が訪れ、特にスチューベンが人気でした。訪れたお客さんは「この時期においしいぶどうが食べられるなんて驚きです」など、とても好評でした。

そのほかにも、町の観光パンフレットの配布や町ふるさと納税返礼品の展示を行うなど、鶴田町のPRが行われました。



△仙台駅内の物産フェアのようす



世の平穩を願い 弥生画奉納

山道町内会は「翁^{おきな}」を制作。「能にして能にあらず」と言われる天下太平や国土安穩を祈禱する神事の一場面を描きました。澁谷信一代表は「来年は平和であるよう願いを込めて制作しました。無事に取り付けられてほっとしています。」と話していました。



△山道町内会が奉納した弥生画「翁」

12月30日に山道町内会が閻魔神社へ、31日に元町弥生会が鶴田八幡宮へそれぞれ制作した弥生画を奉納しました。

元町弥生会は「恵比寿、大黒と卯」を制作。トラックの荷台に載せ町内を巡回し、住民にお披露目。その後、鶴田八幡宮の鳥居に弥生画を掲げました。作業を終えた吉田亘会長は「災害がなく穏やかで皆が笑顔になれる一年になってほしい」と期待を込めていました。



△元町弥生会が奉納した弥生画「恵比寿、大黒と卯」



△地域振興策を提案する鶴高生

鶴高生が地域振興策を提案

1月23日（月）、鶴田高校普通コースの3年生16人が、相川町長や地元企業関係者らを前に、昨年4月より考えてきた6つの地域振興策をプレゼンテーションしました。

鶴田の伝統を広めるための弥生画制作キット開発やオートキャンプ場の開設、オリジナルスイーツを提案するなど、若い視点でさまざまな提案がされました。

相川町長は講評で「大変参考になりました。若者の声が地域を変えるんだという気概を持っていろいろなことに参加して取り組んでほしい」と話しました。

今月のライス☆シェアメニュー スタミナ納豆 (MAME さん投稿)



作り方

- 1 熱したフライパンにサラダ油・ニンニク・ショウガを入れ軽く炒めたら、ひき肉を入れ火が通るまで炒める。
- 2 火が通ったら酒・みりん・めんつゆ・砂糖を入れ、汁気がなくなるまで炒める。
- 3 器に取って荒熱が取れたら、納豆と納豆のタレも一緒にいれて混ぜ合わせて完成。

アレンジ

卵、ご飯、スタミナ納豆と一緒に炒めると納豆チャーハンにもなります。
※チャーハンにする場合は、塩こしょうで味を調べてください。

町では、お米のさらなる消費拡大・地産地消を図るため、お米を使った料理の投稿を随時募集しています。

詳細はこちらよりご確認ください▶



投稿
お米がとろろいませす



材料（2人分）

- ・鶏ムネひき肉 …………… 150g
- ・めんつゆ …………… 大さじ1
- ・すりおろしニンニク …… 大さじ1
- ・すりおろしショウガ …… 大さじ1
- ・酒 …………… 大さじ1
- ・みりん …………… 大さじ1
- ・砂糖 …………… 少々
- ・サラダ油 …………… 大さじ1
- ・ネギ …………… 適量
- ・納豆 …………… 2パック